

平成 22 年度 熊本大学 2 次試験後期日程 (数学問題)
理学部 平成 22 年 3 月 12 日

1 x, y を実数とし, 行列 $X = \begin{pmatrix} x & -y \\ y & x \end{pmatrix}$ を考える。また

$E = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}, O = \begin{pmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$ とする。以下の問いに答えよ。

(問 1) a, b を実数とするととき, 次の等式

$$X^2 + aX + bE = O$$

を満たす行列 X を求めよ。

(問 2) 等式 $X^3 = E$ を満たす行列 X をすべて求めよ。

2 a を $-1 < a < 1$ を満たす実数とする。 xy 平面上の原点を O とし, 点 A の座標を $(1, 0)$ とする。円 $C: x^2 + y^2 = 1$ 上の点 P を, その y 座標が正で, かつ $\vec{OA} \cdot \vec{OP} = a$ を満たすものとする。

(問 1) 三角形 OAP の面積を求めよ。

(問 2) 2 点 A, P から等距離にある C 上の点は 2 つある。この 2 点の座標を求めよ。

(問 3) 点 A, P および (問 2) で求めた 2 点を頂点とする四角形の面積を S とする。 S が三角形 OAP の面積の 3 倍となるような a の値を求めよ。

3 0以上の整数 n に対して, $x \geq 0$ で定義された関数 $I_n(x)$ を

$$I_n(x) = \int_0^x t^n e^{-t} dt$$

とおく。このとき以下の問いに答えよ。

(問1) $n \geq 1$ のとき, $I_n(x)$ を $I_{n-1}(x)$ を用いて表せ。

(問2) $n \geq 1$ のとき, 等式

$$I_0(x) - \frac{I_n(x)}{n!} = \sum_{k=1}^n \frac{x^k}{k!} e^{-x}$$

が成り立つことを示せ。

(問3) $0 \leq x \leq 1$ のとき

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{I_n(x)}{n!} = 0$$

が成り立つことを示せ。

(問4) $0 \leq x \leq 1$ のとき

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=0}^n \frac{x^k}{k!} = e^x$$

が成り立つことを示せ。

解答例

1

(問1) X にハミルトン・ケーリーの定理を適用すると

$$X^2 - 2xX + (x^2 + y^2)E = O \quad (1)$$

(1) および X が満たす等式 $X^2 + aX + bE = O$ から X^2 を消去すると

$$-(2x + a)X + (x^2 + y^2 - b)E = O$$

上式について, 次の2つに場合分けをする.

[1] $2x + a = 0$ のとき

$$2x + a = 0, \quad x^2 + y^2 - b = 0$$

 x, y が実数であることに注意して, これを解くと

$$x = -\frac{a}{2}, \quad y = \pm \frac{\sqrt{4b - a^2}}{2} \quad (4b - a^2 \geq 0)$$

[2] $2x + a \neq 0$ のとき $X = kE$ とおけるので (k は実数), X の成分から $k = x, y = 0$ ゆえに $X = xE$ とおける. これを $X^2 + aX + bE = O$ に代入すると

$$(x^2 + ax + b)E = O$$

よって, 方程式 $x^2 + ax + b = 0$ を解いて $x = \frac{-a \pm \sqrt{a^2 - 4b}}{2}$ このとき x は実数であり, $x \neq -\frac{a}{2}$ であることに注意して

$$x = \frac{-a \pm \sqrt{a^2 - 4b}}{2}, \quad y = 0, \quad (a^2 - 4b > 0)$$

したがって, 行列 $X = \begin{pmatrix} x & -y \\ y & x \end{pmatrix}$ は

$$4b - a^2 \geq 0 \text{ のとき } x = -\frac{a}{2}, \quad y = \pm \frac{\sqrt{4b - a^2}}{2}$$

$$4b - a^2 < 0 \text{ のとき } x = \frac{-a \pm \sqrt{a^2 - 4b}}{2}, \quad y = 0$$

(問2) (1) から $X^2 = 2xX - (x^2 + y^2)E$

これを X^3 に代入すると

$$\begin{aligned} X^3 &= XX^2 \\ &= X\{2xX - (x^2 + y^2)E\} \\ &= 2xX^2 - (x^2 + y^2)X \\ &= 2x\{2xX - (x^2 + y^2)E\} - (x^2 + y^2)X \\ &= (3x^2 - y^2)X - 2x(x^2 + y^2)E \end{aligned}$$

$X^3 = E$ をこれに代入して, 整理すると

$$(3x^2 - y^2)X - \{2x(x^2 + y^2) + 1\}E = O$$

上式について, 次の2つに場合分けをする.

[1] $3x^2 - y^2 = 0$ のとき

$$3x^2 - y^2 = 0, \quad 2x(x^2 + y^2) + 1 = 0$$

$$\text{これを解いて } x = -\frac{1}{2}, \quad y = \pm \frac{\sqrt{3}}{2}$$

[2] $3x^2 - y^2 \neq 0$ のとき

$X = kE$ とおけるので (k は実数), X の成分から $k = x, y = 0$
ゆえに $X = xE$ とおける. これを $X^3 = E$ に代入すると

$$(x^3 - 1)E = O$$

x は実数であることに注意して, 方程式 $x^3 - 1 = 0$ を解くと

$$x = 1$$

このとき, $x = 1, y = 0$ は $3x^2 - y^2 \neq 0$ を満たす.

したがって, $X^3 = E$ を満たす行列 X は

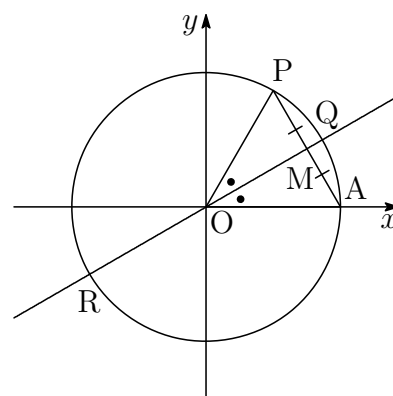
$$\frac{1}{2} \begin{pmatrix} -1 & \mp\sqrt{3} \\ \pm\sqrt{3} & -1 \end{pmatrix}, \quad \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \quad (\text{複号同順})$$

2

(問1) $|\vec{OA}| = 1, |\vec{OP}| = 1, \vec{OA} \cdot \vec{OP} = a$ であるから

$$\triangle OAP = \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{OA}|^2 |\vec{OP}|^2 - (\vec{OA} \cdot \vec{OP})^2} = \frac{1}{2} \sqrt{1 - a^2}$$

(問2) A, P の中点を M とすると, $\triangle OAM \equiv \triangle OPM$ であるから, $OM \perp AP$. ゆえに, 直線 OM は, AP の垂直二等分線である. したがって, 求める 2 点は, C と OM の交点である. この 2 点を右の図のように Q, R とし, $\angle AOP = \theta$ とすると ($0^\circ < \theta < 180^\circ$)



$$\vec{OA} \cdot \vec{OP} = |\vec{OA}| |\vec{OP}| \cos \theta$$

これに $\vec{OA} \cdot \vec{OP} = a, |\vec{OA}| = 1, |\vec{OP}| = 1$ を代入すると

$$\cos \theta = a \tag{2}$$

このとき, Q の座標は $\left(\cos \frac{\theta}{2}, \sin \frac{\theta}{2} \right)$

(2) より

$$\cos^2 \frac{\theta}{2} = \frac{1 + \cos \theta}{2} = \frac{1 + a}{2} \tag{3}$$

$$\sin^2 \frac{\theta}{2} = \frac{1 - \cos \theta}{2} = \frac{1 - a}{2} \tag{4}$$

$0^\circ < \frac{\theta}{2} < 90^\circ$ であるから $\cos \frac{\theta}{2} > 0, \sin \frac{\theta}{2} > 0$

(3), (4) より Q の座標は $\left(\sqrt{\frac{1+a}{2}}, \sqrt{\frac{1-a}{2}} \right)$

また, R は Q と原点に関して対称であるから, その座標は

$$\left(-\sqrt{\frac{1+a}{2}}, -\sqrt{\frac{1-a}{2}} \right)$$

よって, 求める 2 点の座標は

$$\left(\pm \sqrt{\frac{1+a}{2}}, \pm \sqrt{\frac{1-a}{2}} \right) \quad (\text{複号同順})$$

(問3) $\triangle OAP$ に余弦定理を適用すると

$$\begin{aligned} AP^2 &= OA^2 + OP^2 - 2OA \cdot OP \cos \theta \\ &= 1^2 + 1^2 - 2 \cdot 1 \cdot 1 \cdot a \\ &= 2(1 - a) \end{aligned}$$

$$AP > 0 \text{ であるから } AP = \sqrt{2(1 - a)}$$

したがって、面積 S は

$$S = \frac{1}{2} QR \cdot AP = \frac{1}{2} \cdot 2 \cdot \sqrt{2(1 - a)} = \sqrt{2(1 - a)}$$

このとき、 $S = 3\triangle OAP$ であるから

$$\sqrt{2(1 - a)} = 3 \times \frac{1}{2} \sqrt{1 - a^2}$$

$0^\circ < \theta < 180^\circ$ 、(2) より $a \neq 1$ であるから

$$\sqrt{2} = \frac{3}{2} \sqrt{1 + a} \quad \text{これを解いて } a = -\frac{1}{9}$$

3

(問1) $n \geq 1$ のとき

$$\begin{aligned} I_n(x) &= \int_0^x t^n e^{-t} dt = - \int_0^x t^n (e^{-t})' dt \\ &= - \left[t^n e^{-t} \right]_0^x + n \int_0^x t^{n-1} e^{-t} dt \\ &= -x^n e^{-x} + n I_{n-1}(x) \end{aligned}$$

(問2) $1 \leq k \leq n$ のとき、(問1)の結果から

$$\frac{I_k(x)}{k!} = -\frac{x^k}{k!} e^{-x} + \frac{k I_{k-1}(x)}{k!}$$

$$\text{ゆえに } \frac{I_{k-1}(x)}{(k-1)!} - \frac{I_k(x)}{k!} = \frac{x^k}{k!} e^{-x}$$

$$k \text{ について加えると } \sum_{k=1}^n \left\{ \frac{I_{k-1}(x)}{(k-1)!} - \frac{I_k(x)}{k!} \right\} = \sum_{k=1}^n \frac{x^k}{k!} e^{-x}$$

$$\text{よって } I_0(x) - \frac{I_n(x)}{n!} = \sum_{k=1}^n \frac{x^k}{k!} e^{-x}$$

(問3) $0 \leq t \leq 1$ のとき $\frac{t^n}{e} \leq t^n e^{-t} \leq t^n$
 $0 \leq x \leq 1$ のとき

$$\int_0^x \frac{t^n}{e} dt \leq \int_0^x t^n e^{-t} dt \leq \int_0^x t^n dt$$

したがって $\frac{x^{n+1}}{(n+1)e} \leq I_n(x) \leq \frac{x^{n+1}}{n+1}$
 $\frac{x^{n+1}}{(n+1)! \cdot e} \leq \frac{I_n(x)}{n!} \leq \frac{x^{n+1}}{(n+1)!}$

ゆえに $0 \leq \frac{I_n(x)}{n!} \leq \frac{1}{(n+1)!}$

$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{(n+1)!} = 0$ であるから, はさみうちの原理により

$$0 \leq x \leq 1 \text{ のとき } \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{I_n(x)}{n!} = 0$$

(問4) $I_0(x) = \int_0^x e^{-t} dt = \left[-e^{-t} \right]_0^x = -e^{-x} + 1$

$0 \leq x \leq 1$ のとき, これを (問2) の結果に代入すると

$$\begin{aligned} -e^{-x} + 1 + \frac{I_n(x)}{n!} &= \sum_{k=1}^n \frac{x^k}{k!} e^{-x} \\ 1 + \frac{I_n(x)}{n!} &= \sum_{k=0}^n \frac{x^k}{k!} e^{-x} \\ e^x + \frac{I_n(x)}{n!} e^x &= \sum_{k=0}^n \frac{x^k}{k!} \end{aligned}$$

(問3) の結果から $\lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=0}^n \frac{x^k}{k!} = e^x$

補足

$f(t)$ を必要な回数だけ微分可能な関数とし (C_∞ 級), $k \geq 1$ とする.

$$\begin{aligned} \int_a^x \frac{(x-t)^{k-1}}{(k-1)!} f^{(k)}(t) dt &= - \int_a^x \left\{ \frac{(x-t)^k}{k!} \right\}' f^{(k)}(t) dt \\ &= - \left[\frac{(x-t)^k}{k!} f^{(k)}(t) \right]_a^x + \int_a^x \frac{(x-t)^k}{k!} f^{(k+1)}(t) dt \\ &= \frac{(x-a)^k}{k!} f^{(k)}(a) + \int_a^x \frac{(x-t)^k}{k!} f^{(k+1)}(t) dt \end{aligned}$$

よって $\int_a^x \frac{(x-t)^{k-1}}{(k-1)!} f^{(k)}(t) dt - \int_a^x \frac{(x-t)^k}{k!} f^{(k+1)}(t) dt = \frac{(x-a)^k}{k!} f^{(k)}(a)$

上式を $k = 1, 2, 3, \dots, n-1$ について辺々を加えると

$$\int_a^x f'(t) dt - \int_a^x \frac{(x-t)^{n-1}}{(n-1)!} f^{(n)}(t) dt = \sum_{k=1}^{n-1} \frac{(x-a)^k}{k!} f^{(k)}(a)$$

ゆえに

$$f(x) = \sum_{k=0}^{n-1} \frac{(x-a)^k}{k!} f^{(k)}(a) + \int_a^x \frac{(x-t)^{n-1}}{(n-1)!} f^{(n)}(t) dt \quad (5)$$

積分区間における $f^{(n)}(t)$ が最大値, 最小値をもつとき, それらをそれぞれ M, m とすると, $\int_a^x \frac{(x-t)^{n-1}}{(n-1)!} f^{(n)}(t) dt$ は

$$\int_a^x \frac{(x-t)^{n-1}}{(n-1)!} M dt = \frac{M}{n!} (x-a)^n, \quad \int_a^x \frac{(x-t)^{n-1}}{(n-1)!} m dt = \frac{m}{n!} (x-a)^n$$

の間の値をとるので, この区間内のある c は

$$\int_a^x \frac{(x-t)^{n-1}}{(n-1)!} f^{(n)}(t) dt = \frac{f^{(n)}(c)}{n!} (x-a)^n \quad (6)$$

を満たす. (6) を (5) に代入すると

$$f(x) = \sum_{k=0}^{n-1} \frac{(x-a)^k}{k!} f^{(k)}(a) + \frac{f^{(n)}(c)}{n!} (x-a)^n \quad (7)$$

(7) を $f(x)$ の $x = a$ におけるテイラー展開 (Taylor expansion) という. とくに $a = 0$ とすると

$$f(x) = \sum_{k=0}^{n-1} \frac{x^k}{k!} f^{(k)}(0) + \frac{f^{(n)}(c)}{n!} x^n \quad (8)$$

となり, これをマクローリン展開 (Maclaurin's expansion) という. (問4) の結果は, (8) において, $f(x) = e^x$, $n \rightarrow \infty$ とすることにより得られる.